

1929年に建設され、明延鉱山明神電車は明延の鉱山から神子畑の精錬工場まで鉱石を運ぶ6キロメートルの鉄道であった。1945年鉱山は狭軌鉄道に合うよう設計された客車を加え、従業員がその二つの町を行き来できるようにした。1949年、この営業は一般大衆にも広げられ、それは便利な通勤経路となった。電車の運賃は丁度1円だったので「1円電車」として知られるようになった。客車は明神電車が営業をやめ明延鉱山が閉鎖する2年前の1985年まで毎日走っていた。その客車のうち3輛は今も明延に展示されている。それらは「シロガネ」(銀)、「アカガネ」(銅)、そして「クロガネ」(鉄)と呼ばれている。2010年、全国規模の募金運動とボランティア活動のおかげで訪問者を運ぶ「クロガネ」列車用の70メートルの線路が造られた。それは4月から11月まで月に一度営業している。